

協働的に学ぶ

USE—Write

学校生活について記事を書こう

※1年間の学校生活の中で印象深かったできごとを、ウェブサイトの配信中に、海外の中学生に紹介しよう。

誰が紹介記事を書いています。 校外学習

11月 11日 土曜 校外学習
9:00 駅に集合
～ (電車で移動)
11:00 大仏 見学
12:00 昼食
13:00 寺務通り
15:00 博物館 見学
16:00 駅で解散

Step 1 できごとを選択

Step 2 日本語でメモを作る

Opening	できごと	・ field trip
Body	どこで、何をしましたか	・ visited / Kamakura ・ saw / big Buddha ・ studied / history / museum
Closing	感想・まとめ	・ enjoyed / Kamakura

Step 3 英語のメモをもとに、文章を書き、タイトルと書きをつける

Field Trip to Kamakura

Kato Ken

Our school has two field trips every year. We visited Kamakura in November. We saw a big Buddha. We studied the history of the city at the museum. We enjoyed Kamakura very much.

(by Ken)

記事には「タイトル」と「書き」がついているね。

1) Step 1 の日本語のメモのうち、Step 2 の英語のメモで取り上げたものにチェック☑しよう。
2) Step 3 の英文のうち、Opening、Body、Closing はどの部分ですか。 / で区けよう。
3) Step 3 の文章を書き終えたら、内容を確認し、誰がどんな工夫をしているか話し合おう。

Lesson 9

2 クラスやグループで協力して、「印象深かった学校生活について、紹介記事を書く練習をしよう。

(1) どんなできごとが「何をしたか」「何があったか」「どう感じたか」を書き出そう。

(2) (1) で書き出した「できごと」から1つ選んで、詳しくメモを作ろう。

Step 1 できごとを選択

Step 2 日本語でメモを作る

Opening	できごと	
Body	どこで、何をしましたか	
Closing	感想・まとめ	

(3) (2) のメモをもとに、詳しく紹介記事を作成せよ。

3 あなたにとって印象深かった学校生活について、紹介記事を書こう。

Idea Box

- ① one-day camp (1日だけのキャンプ) sports day 運動会 school festival 文化祭
- ② cook/curry カレーを作る win the first prize 優勝する
- ③ make friends with ... と友達になる have a good time 楽しむ

Tips for Writing

※時間内に全てでできごとを紹介するのかわかりやすい。

校外学習の行程
11:00 大仏 見学
12:00 昼食(サンデイツチ)
13:00 寺務通り

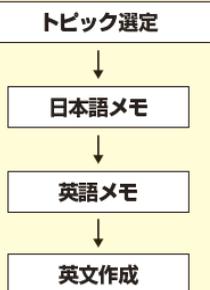
I saw a big Buddha. (11:00) I had sandwiches for lunch. (12:00) I visited some temples and shrines after lunch. (13:00)

文章作成のプロセスを理解した後、クラスやグループで書く練習をし、最後に自分の力で書きます。

「見える化」

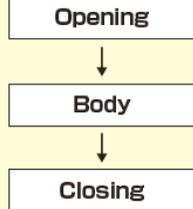
書く手順

4つのステップで、モデル文の作成プロセスや文章構成を理解します。



文章の構造

典型的な英語の文章構造に繰り返し触れ、型を身につけます。



工藤 洋路 (玉川大学)

1. 頭のなかもアクティブに

アクティブ・ラーニングでは、「主体的」および「協働的」に学ぶことにフォーカスが当てられるが、これは、単に、ペアワークやグループワークを授業に取り入れればよいということではない。友だち同士で話をしていたとしても、目的や見通しもなく話し続けていれば、それはアクティブな状態とは言えない。アクティブ・ラーニングで大切なことは、頭の中もアクティブな状態であるということである。例えば、「今書いている英語は最終的にはウェブサイトに掲載するものだよ。だから、どんな人が読んでも分かるように説明しようよ。僕はこう書いてみたけど、君はどう？」というように、頭の中で描いた見通しを踏まえて、友だちとやり取りできるということである。

2. NEW CROWN の USE Write を使ったアクティブ・ラーニング

USE Write では、最終的に誰に向けて何を書くかの指示がある。この設定を、活動中、意識させ続けることが大切である。まず、左ページでは、この課題を別の人が行った(理想的な)やり方を順に確かめるという段階が設けられている。最初から主体的に活動に取り組むことはなかなか難しいため、まずはこのステップを踏み、参考にしながら、右ページで、自力で、つまり主体的に課題に取り組む。「自力」というのは、ここでは「先生の強いサポートがない」という意味であり、友だち同士で協力し合うことも推奨されている。「グループで協力して」という指示があるが、重要なことは単に話し合うのではなく、最終的なゴールに向けて話し合うということである。従って、グループの中で、議論している内容がトピックから外れていないかをチェックする役割を作ってもよい。その際 “We’re off the track.” などの表現を教えて使わせたりすることで、生徒たち自身でゴールに向かって主体的に進ませることができる。

3. アクティブ・ラーニングが向かうべき方向

USE Write はステップが細かく設定されており、順に行うことで活動に取り組みやすくしている。ただし、現実の言語使用の世界(あるいは試験などの機会)においては、ステップは提示されない。そこで、この USE Write では、課題に取り組みながら、辿るべきステップ自体も学べるように工夫がされている。書くためのプロセスも学ぶことで、現実場面が必要となる真の主体性を学ぶことが可能になる。